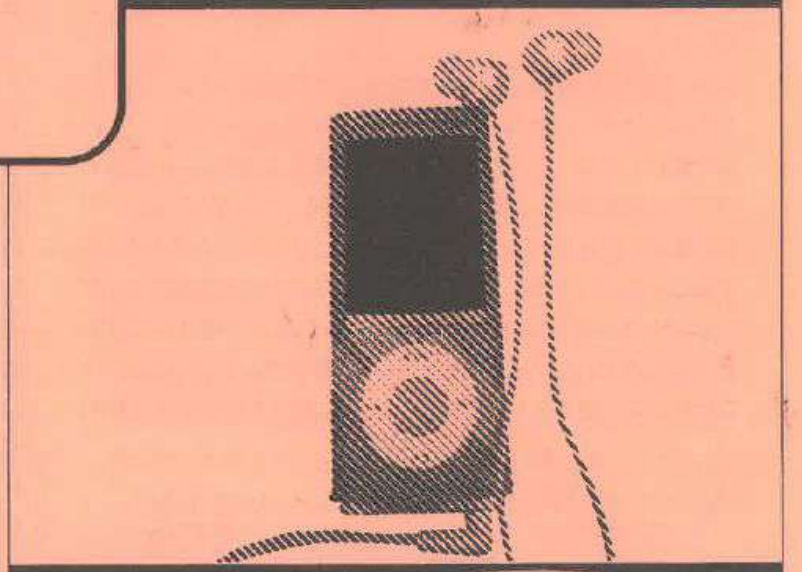
特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター　事務局通信

2012年1月1日　Vol.79

みみんん

【題字】谷川俊太郎さん

MY FAVORITE　お気に入り小物拝見



せんだい・みやぎNPOセンター事務局長、伊藤浩子のお気に入り小物は i pod。(携帯音楽プレーヤー)。オレンジのビタミンパワーいっぱいの i podは、結婚記念日のご主人からのプレゼント。気になる中身は、なつかしの(?) あの曲から、最新の洋楽まで、幅広いレパートリー。その秘密は、娘さんとの"音楽共有"にあるそうです。毎日の通勤に元気を与えてくれる、家族の愛が詰まったお気に入りの小物でした。

■目次

P2～4　理事鼎談
(代表理事　大滝精一×代表理事　紅邑晶子×事務局長　伊藤浩子)
P5～7　せんだい・みやぎNPOセンターの事業から(2011年10月―2011年11月)
P7……　新スタッフ紹介
P8……　新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

理事対談

「2012年は“復興=仙台・宮城を支える人材育成”」

2011年3月11日の前後で大きく変わった、仙台市内をはじめとした宮城県内の市民活動。せんだい・みやぎNPOセンターも、震災発生の一週間後から体制を整え、復旧・復興活動を中心に活動を開始した2011年。2012年は仙台市をはじめ、宮城県内の復興を支える人材育成を目指します。

■2011年をふりかえる

紅邑：当センターの2012年の展望をどう抱いているのかを、代表理事の大滝精一さんと私、それに2011年に事務局長になった伊藤浩子さんを交えて話をしたいと思います。去年(2011年)の展望の際には足場を固める事が多く、今年は復興も次の段階に入ります。また当センターも設立から15年の節目の時で、地域にとってこういう組織でありたいとか、復旧・復興に対しての想いですとか、各自どのように考えているのかをお聞かせ頂きたいと思います。

大滝：3月11日の東日本大震災の前と後では状況がさま変わりしており、とにかく復旧・復興を第一優先にするということでこれまで動いてきました。震災1週間後に理事会を開催し、その中でサポート資源提供システムの話が出てきて、やはり私たちがこれまで築いてきたものを震災復興再生版にするのが上手くいくのではないかという話になりました。同時にみやぎ連携復興センター(以下、れんぷく)設立の案も出まして、全国から様々な支援が寄せられる中、いかに企業や市民、NPOと連携していくかということが主な議論だったと記憶しています。被災地域や支援活動を行うNGOに資源を届ける仕組みを創れば、復旧・復興がスピードアップするだろうと思っていました。サポート資源提供システムをベースにし、NPOセンターとしてこれまでの成果をもって、自信を持って復旧・復興活動に入って行けるのではないかと。今ふりかえってみれば、単にNPO・NGOを結ぶということだけではなく、全国の企業や市民を被災地とつなぎ、物資など必要な時に必要な物を届けることが出来たと思っています。ただ現在は直接的な支援を行うだけでなく、皆さんと一緒にまちを作っていく、雇用を創出していく、そういう事が大事になってきています。それと、私たちにとって大きな影響を与えた事として、やはり加藤哲夫さんが8月に亡くなられたということがありました。それ以前から療養生活を送られてきていましたから、加藤さんがリーダーシップをとるのではなく、別のやり方でいかにセンターを動かしていくのかというのが積年の課題でありました。

大滝 精一さん
せんだい・みやぎNPOセンター
代表理事

紅邑：震災直後の理事会で、当センターの果たすべき役割について話し合われましたね。れんぷくに関しては大滝先生が命名されて、その翌日に記者クラブで発表をしました。当日は詳細に中身がつまっていなかったので、大滝先生を前に出して乗りきった事を覚えています。そういう仕組みをつくるにあたり、この組織が持っているリソースを使っていこうということだったと記憶しています。震災直後からいろいろな団体や人々が当センターを目指して来られ、訳も分からないままに名刺だけが山のように積み重なっていく毎日でした。後からお話を聞くと、宮城県の中間支援組織として、全国の皆さんが名前を知っていてくださり、「宮城に行くならせんだい・みやぎNPOセンターに行きなさい」とアドバイスをしてくださったようです。そのように他の団体に認識されていたことは強く受け止めなくてはいけないことであり、また、だからこそ今後もそういう期待に応えられる組織であり続けたいと思っています。地元の団体に対しては、「はばたけファンド」を作り、集まったお金をただちにNPOに差し上げる事が出来たのは、やはりサポート資源提供システムを持っていたからだと思っています。NPO情報ライブラリーに関しても、登録団体に連絡を入れ、状況がいろいろ見えた事は非常にありがたかったです。約160のライブラリー登録団体が、当センターの財産であり評価できる事だと思っていますが、課題として日常的にどれだけ活用できていたのかなど、仕組みに対しての問題にも気づかされました。加藤さんが亡くなられたことも、震災も、今思えば組織を固めるきっかけになったように思います。そしてまた震災発生から今まで、各施設のセンター長がそれぞれの施設を一所懸命支える役割を担ってくれました。それがとても有り難かったです。伊藤さんはいかがでしたか?

伊藤：私は、震災の日は仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)におりました。スムーズに利用者と施設の安全性が確保できた事、また避難できたこと、利用者がきちんと帰宅する事を見

伊藤 浩子さん
せんだい・みやぎNPOセンター
事務局長

届けて施設を閉めたこと、これらは仙台市から評価されました。サポセンではスタッフもスムーズに動けましたし、震災後開館する際もスタッフが自発的に出勤しました。暖もとれない中、防寒着を着ながら積極的に市内の情報収集と発信を行うと共に、3月28日からは活動の場を提供しました。市内の公共施設の多くが被害があった中、これはとても大きい役目を果たしたのではないでしょうか。多賀城市のサポートセンターに関しては市域の1/3が津波の被害を受けたのですが、丘の上にある施設であったため大きな被害も特になく、当日は避難者の対応をすることにもなりました。その後はスタッフは自転車や車など、それぞれ工夫して何とか通勤し、社協や行政に入って情報提供を続けました。本体事務局としては新しい仕組みとして、はばたけ！みやぎNPO復興活動応援基金（はばたけファンド）を創り、第1次として即応的に資金援助したことは、団体の方からも“あの時期に助成金を出してくれたから頑張ろうと思えた”とお礼を言われました。そのような声を聞くたびに、私たちのやっていることの意義を深く感じます。

紅邑：もともとの基盤があったからこそ、新しいものを生み出すことができたと実感しているのですけれども、これから私たちが求められることも変わってきていると思うのです。新しく作ったと言えば、地域創造基金みやぎ（以下、基金）を作ったことが挙げられます。地域資金の循環を作りだそうと、国内外含め資金援助を受けました。そういった状況から、地元だけではなく全国に呼び掛けをして作ることができたのですけれども、作って安心ということではなく、どう活かすかが次の課題です。確かに、私たちはれんぷくとして場を作り、新たなつながりも生まれてきています。ですが、そこで終わりではなく、そこからの情報をいかに我々が発信できるかが問われるのではないかと思うんです。そのあたり大滝さんはどう思われますか？

■2012年展望

大滝：まさにそうだと思います。どういう風に、どのようなやり方で情報を発信していったらいいか、それが大事だと思います。また、基金の広報にも問題があると思います。はたして地元の市民のうちのどれだけの方が基金に関して知っていらっしゃるんでしょうか？この1、2年は非常に大切で、震災の記憶が薄れないうちにやらなくてはいけないと思います。NPOに関わりのない方にも伝える事が大切なんじゃないでしょうか？

伊藤：行政の現場では、やはりNPOやNGOが復旧・復興の現場で行政ができないことを、機動力を持って取り組んだという認識はありますね。NPOの認知度が上がっている状況で、中間支援としてどのような事をしていくのか、各市町に提案していくことが必要だと思っています。今までの取り組みを踏まえ、我々だからこそ出来ることを提案していくことが必要ではないでしょうか。行政だけではできないところ、行政と民間企業との空白の部分を埋めていけるような政策提案、提示をしていくことをやらなければいけないですね。

紅邑 晶子さん
せんだい・みやぎNPOセンター
代表理事

大滝：その通りです。言葉としては参画協働と出ていましたが、あまり行政の方も企業の方も実感を持てなかったと思うんです。今回の場合は震災が起こり、協働しなければ何もできないということに直面した。またNPOの側もそれにふさわしい仕事をやったのではないかと思います。NPOと行政、NPOと企業が手を組んで、震災復興を加速できると思うんです。それから、これは当センターがまだ弱い所ですが、行政に対して提言する事です。旗振り役をすることを期待されていたと思うんですね。当面はアドボカシーや参画協働を行政と共に進めながら、まちづくりに関わることが重要だと思います。そして、その先にある復興の人づくりが重要だと思います。復興を担っていく人が出てくる。そしてそのような人材を当センターが育てる。そうならなければ復興はないと思うんです。実際に多くの復旧・復興に駆けつけた若者が育っているんですね。今までの東北地方の特色を踏まえながら、地域が空洞化しないような地域づくり、そういうことをできる人を集められるようなNPOセンターにならないといけません。大きな戦略、スタンスが必要だと思います。

紅邑：そうですね。さらに、いま復興に携わっておられるシニア世代の方の応援も必要だと思うんです。また、東北の多くの若者が他地域に出て行っている中、地元に残っている若者をどう支えるか、あるいは震災がきっかけでふるさとに戻ってこようと考えている若者の受入れ体制について考えたいですね。そのような仕事場づくりというか仕組みは当然私たちだけでは無理で、大学だとか、産業界や自治体と連携して作らなくては、と思うんです。

伊藤：東京のNPO法人ETIC.が行っている“右腕プロジェクト”（被災地のリーダーを支える人材を、右腕と称して東北各県のNPOに送り込むプロジェクト）説明会に参加した際、200人を超える若い人たちが応募されていて驚きました。それと同時に、学生やフリーターではなく、社会人が退職や休職をして右腕志願として登録しておられ、それはとても心強く思いました。何とかそのような人たちがやりたい事をやりつくせる環境を作りたいと思っています。

大滝：多くの人たちと連携し、国が進めるソーシャル・ビジネス（SB）やコミュニティ・ビジネスを推進する必要があります。それも脆弱なビジネスではなく、持続力のある、雇用も確保できるSBを作らないと結局地域にとっても復興にはならないですね。確かに短期的な雇用も必要ではありますが、震災のことを考えると、地域に根差したビジネスが必要だと思います。そこに必死になって取り組まないといけないと思っています。

紅邑：甚大な影響を及ぼした震災の影響から、私たちがしなくてはいけない事が多数見えてきたのと同時に、自分たちだけではできないことも実感することができました。やはり2012年は関係している団体や行政、企業と協働して、どんな成果がどれだけ生み出せるか、それが我々のやるべきことだと確信しました。

（記録・編集　藤原航）

せんだい・みやぎNPOセンターの事業から（2011年10月－2011年11月）

理事・管理職のチームビルディング研修

昨年から当センターは、管理職研修をはじめとして組織体制の見直しを少しずつ行ってきました。その理由としては2011年8月26日に他界してしまいましたが、当センター代表理事の故加藤哲夫さんが入院をしたことがきっかけでした。組織の、またセクターの中でリーダーとして活躍していたトップが一線を退いたことを受け止め、昨年は管理職がどう組織風土を作っていくかを議論し、管理職のクレドを作りました。

そして2011年3月、東日本大震災があり、大きな打撃を受けながら全国からの支援や協力、問い合わせなどの対応と、中間支援組織として震災対応の取り組みを行っていく中、改めて組織の足固めをするため7月から12月まで5回にわたって、理事と管理職を対象とした、プロカウンセラーによるチームビルディングワークショップを行いました。

このワークショップは、1回5時間程度、一般的な質問や参加者の勤務上のトピックから、内容とその意味を考え、気づきなどを深めていきました。参加者それぞれが自分自身と向き合い、2人1組になり感じたことを伝え合っていきました。最初は自分と向き合い、感じたことや身体の状態を言葉で発することがむずかしく、うまく表現できないことも。今まで経験したことのないワークショップなだけに初日はとても疲れを感じたのが正直なところでした。

時折呼吸を整えながら、自分の奥底にあるものを感じながら、またその場にいる仲間の言葉を聴きながら、組織の中にいる自分と仕事、役割、周囲との関係性、チームについて学びました。

現在は一緒に働く職員が、それぞれの違いを尊重し合い、互いの良いところが伸びていく協力関係と、仕事の結果を出していく相互協力があるチームと職場環境を作っていくために、今回のワークショップで気づいたこと、学んだことを少しずつ試している最中です。新しい組織体制となり、今までとは違ったカラーを出しながら組織内部を強くしていきたいと思います。

加えてこのワークショップでは、普段あまり時間を取って話す機会が少ない理事の皆さんと一緒に同じテーマで話せたことで、距離が近くなったことも大変貴重な機会でした。これもまたチームビルディングの一つだと思いました。（伊藤浩子）

ソーシャルビジネス・トレーニングジム「フラスコおおまち」エンジンフル回転

社会起業家とその卵を応援する事業として、「フラスコおおまち」では「フラスコセミナー」や「起業支援相談会」「フラスコサロン」（交流会）を定期的に実施しています。またこれらの様子をブログでお伝えすると共に、メールマガジンで様々な情報を発信し、ソーシャル・ビジネス（以下SB）、コミュニティ・ビジネスを支援しています。

■多彩な参加者が意見交換――フラスコセミナー

10月22日（土）、地域再生事業で実績のある藤倉潤一郎さん（「株式会社　地域協働推進機構」代表取締役）を講師にセミナーを実施しました。テーマは「震災復興に向けたソーシャルデザイン―社会起業家を核としたコミュニティづくりと地域拠点のあり方」。東日本大震災後、創造的な復興を目指す派と、従来の生活重視派の意見が対立する情況をふまえ、1.二項対立を乗り越えるイノベーションの必要性、2.官民協働の地域再生、3.対話や、創造と協働を促す“地域拠点施設のあり方”、4.社会起業家に期待される役割と課題、等について多くの事例をもとにお話いただきました。参加者は社会起業家、企業で復興事業に関わる方、行政、NPO関係者など約20名。セミナーの後には活発な意見交換も行われました。

■フラスコサロンの報告など、および今後の予定

第4回フラスコサロンは11月21日（月）、「ちいちゃなビジネス応援塾」を主催する稲葉雅子さん（株式会社ゆいネット代表取締役）をゲストに、「身近なところから始める小さなビジネスを成功させる秘訣」について伺いました。ご自身も起業家であり、起業家の育成を行う稲葉さんのお話は、SBの事業性や心構えについて改めて考えさせられる内容でした。また、第3回起業支援相談会は11月28日（月）、川村志厚さんをアドバイザーに実施。川村さんの相談会は今回で2回目ですが、定期的に同じアドバイザーが相談に乗ることで信頼関係も深まり、長期的サポートが可能になります。半数が継続してサポートを希望する起業家で、回を重ねるごとに成長、事業の発展が見られるのが楽しみです。今後の催しについては8頁をご覧ください。（中島るみ子）

みやぎ連携復興センターのめざすものと活動の概要

みやぎ連携復興センター(以下「れんぷく」)は、発災一週間後の2011年3月20日(日)に、ジャパン・プラットフォーム、仙台青年会議所、パーソナルサポートセンター、被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(略称:つなプロ)、せんだい・みやぎNPOセンターの5団体により設立されました。当初は、避難所への支援を相互調整する機能を果たしていましたが、被災地の状況が救援・復旧から次第に復興の段階へと移行しつつあった8月より見直しを行い、10月から新生れんぷくとして船出しました。本稿ではこの新生れんぷくのご紹介をさせて頂きます。

■みやぎ連携復興センターのめざすもの

活動のゴールは『地域主導の自律的な復興とまちづくりの実現』です。一見"あたりまえ"のことに思えますが、NPOや企業、各種コンサルタントまで様々な外部からの支援がある復興の現場では、支援側の声が大きすぎ、必ずしも地元の方の考えにそわない復興が進むことが珍しくありません。ましてや、被害の大きさと被災地域の広さ共に未曾有の規模である今回の大震災においては、海外からも含めかつてない数の支援が東北地域に入っており、その支援自体は大変ありがたい反面、復興とその後のまちづくりに地元の方の意思が入りにくくなる可能性も高まっていると思われます。そこでれんぷくは、この"あたりまえ"のことを敢えて活動のゴールと掲げることとしました。

■みやぎ連携復興センターの活動

このゴール実現のため、1)担い手を「繋げる」連携事業、2)担い手を「育てる」育成・支援事業、3)被災地と被災者の現状を「調べる」調査事業、の三つを活動の柱として展開中です。

1)連携事業では、仮設住宅団地の支援者対象の連携会議、地元に根付いたNPOやサークル等対象の連携会議、政府・県・社会福祉協議会との連絡調整会議を継続的に実施しています。

2)育成・支援事業は、被災者雇用につながる起業家育成をめざす「創業塾(仮)」と、町内会自治会等地元の活動体を支援する「市民活動塾(仮)」の二つの枠組を、2012年3月にスタートさせる予定です。

3)調査事業では、県からの業務委託で「仮設住宅団地生活環境調査」(周辺生活資源と自治コミュニティ組成状況の調査)を実施中で、1月末には結果をご報告致します。

新しい年も、れんぷく一同精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

(みやぎ連携復興センター　事務局長　佐野哲史)

2011年度 ろうきん地域貢献ファンド

今年で9年目を迎えたろうきんファンドは、東北労働金庫宮城県本部からの拠出金と、ろうきんNPO寄付システムおよびろうきんNPOサポーターズからの寄付金を原資とする助成プログラムです。

今年度は、(Aコース)事業助成と(Bコース)備品購入助成の2つのコースで実施し、両コース合わせて19団体の応募がありました。そして、8月18日(木)に審査会が行われ、厳正な審査の結果、右記の11団体に総額144万4050円の助成を行いました。

助成を受けた各団体は、それぞれの助成事業を実施し、備品の購入を行っているところです。(特活)東北の造形作家を支援する会では、助成事業の一環として石巻市立門脇中学校美術部の展覧会をギャラリーで開催し、河北新報でも記事に大きく取り上げられました。(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワークは他団体とも協働して薪作りや白炭作り体験会を開催し、参加者が多く集まりすぎて定員を急遽増やしたほどでした。

国際交流協会ともだちin名取は、事務所のあった名取市市民活動支援センターが被災して事務機器がすべて破損してしまいましたが、ろうきんファンドで新たに複合機などを購入し、被災者の生活支援活動に役立てています。

ろうきんファンドの資金支援により、このように多くの団体が活発な活動を展開しています。当センターでは、各団体が成果をあげられるよう資金以外の面においてもさらなる支援を行っていきます。(布田剛)

事業助成

団体名	事業名	助成額
財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	地域の森林資源を地域で活用するための小規模流通システム実証事業	20万円
梅田川せせらぎ緑道を考える会	梅田川源流の森づくり事業	10万円
子育て支援ベビースマイル石巻	マタニティー～未就園児親子への子育て支援事業	20万円
特定非営利活動法人東北の造形作家を支援する会	虹色ぱれっと	20万円
障害者社会参加劇団劇団ファットブルーム	障害者地域参加事業「そして地域へpart4」	20万円

備品購入助成

団体名	事業名	助成額
仙台市森林アドバイザーの会	チェーンソー、刈払機	10万円
子育て支援グループちゃぷちゃぷ	ノートパソコン	9万円
国際交流協会ともだち in 名取	A3対応カラープリンター、A3複合機、キーボードカバー、マウス、インク	10万円
とっておきの広場	冷蔵庫、CDラジカセ、ホワイトボード、裁断機、パンフレットスタンド	10万円
特定非営利活動法人よりそって石巻	トーン・チャイム	9万円
特定非営利活動法人働くお母さんと子供を支援する会	学童クラブのロッカー	6万4050円

みんみん堂ネットショップ リニューアルオープン

当センターの新しいサービスとして2011年8月に正式スタートした、「みんみん堂ネットショップ」がリニューアルオープンしました。取り扱い書籍は40冊以上。市民活動、組織運営に役立つ良書を揃えています。ぜひご活用ください!

■想いとともに全国に貴重な書籍を届ける

みんみん堂ネットショップのはじまりは、加藤哲夫元代表理事の一声でした。全国のNPOや行政、企業など各セクターの方に、自身の著書をはじめ、書店では手に入りにくいけれど良質な書籍を届けたいという想いがありました。7月から早急に準備を進め、第一弾として当センター関連書籍17冊を8月4日(木)から販売開始。オープンから3日目に最初の注文がありました。その後、11月に20冊以上の書籍を加え、これまで計54件、126冊、11,419円の売り上げがありました。(2011年11月19日(土)現在)。特に『市民のネットワーキング－市民の仕事術Ⅰ』『市民のマネジメント－市民の仕事術Ⅱ』(いずれも加藤哲夫著)は、全国各地のNPO、行政、企業の方から注文を受けています。

■スタッフによるオススメポイント付き

ネットショップの魅力の一つは、ウェブ上から簡単に注文ができることです。従来はFAXでの注文受付や事務所にて販売をしていましたが、これからはいつでもどこからでも購入することができます。また、一冊一冊にスタッフが、概要と活動に活かせるポイントをわかりやすく解説しています。「たくさんあるけど何を買って良いかわからない」「○○で困っているけど参考になる本は?」という方も、一読していただければ最適な一冊が見つかるはずです。

当センターのウェブサイトや「みんみん堂」でキーワード検索するとヒットします。最新の書籍についてもご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

http://minmindo.cart.fc2.com/(桃生和成)

140名超で加藤哲夫さんを思い出した日 ～「Tetz Bar」1日限定オープン～

11月27日(日)、当センター元代表理事の故加藤哲夫さんを偲ぶ会、「TetzBar」(てつつばー)が、仙台市中心部のライブハウスを会場に開催されました。主催は当センターのスタッフと、息子さん夫婦、当センターOB・OG、加藤さんと所縁のある方々等による実行委員会により、1ヶ月の準備期間をかけて開かれたものです。

■第1部:しめやかに思いだす

「Tetz Bar」は2部構成で行われました。第1部は会場全員での黙とうからスタートしました。引き続き、実行委員長の紅邑晶子代表理事の挨拶と献杯後、加藤さんがご自身で生前録画していたお別れのビデオが流されました。その姿やことばを思い出し、こらえきれず涙する方の姿も見られました。そんな加藤さんの想いに応えるように、苫米地サトロさんのギター弾き語りが続きました。加藤さんとは古くからのお知り合いだそうで、魂の奥底からしぼり出すように歌われる苫米地さんの歌が、加藤さんを想う皆のこころにジワリと沁みこんでいきました。

■第2部:にぎやかに送りだす

歓談のあとは第2部の始まりです。「自分が食べられない、飲めない分だけ、みんなには美味しいものを楽しんでもらいたい」。生前の加藤さんの望みを叶えるべく、ジャンピング・クローによるニューオーリンズジャズで一気に華やかなムードに。それぞれの思い出をお話し頂いたゲストのリレートーク、加藤さん等身大パネルとの記念撮影、加藤語録「てつおみくじ」などを話題に、会場はますます盛り上がっていきました。最後は実行委員会メンバーの紹介、ご子息、哲平さんによる挨拶と、加藤さんが残したビデオメッセージで1日限定「Tetz Bar」は惜しまれながら閉店となりました。

■多くの人に愛されている加藤さん

今回の仙台での開催のほかにも、全国各地で加藤さんを偲ぶ会が催されているそうです。それだけでも加藤さんという人がどれだけ多くの人に慕われ、愛されていたかが分かります。「Tetz Bar」の最後の当センター新川達郎理事の挨拶では来年の開店が予告されたようですが、実現するかどうかはお楽しみということにして、Tetz Barレポートを終えます。(小川真美)

新職員紹介

●登坂　宗太(トサカソウタ)

勤務地:大町事務局

発展途上国への政府開発援助を実施するJICAより出向で来ています。趣味はスポーツ全般。生まれが山形県鶴岡市、育ちは千葉です。仕事柄、東京か海外の仕事が多い中、大学時代にインターンでお世話になったせんだい・みやぎNPOセンターで業務をさせて頂く機会を得、毎日飛び跳ねるほど嬉しく仕事をさせてもらっています!

●中川　康生(ナカガワヤスオ)

勤務地:大町事務局

ビッグイシュー基金(佐野章二代表)からの派遣で、6月9日(木)にせんだい・みやぎNPOセンターに来ました中川です。大阪で育ち、リタイア後はクルージングと決め、中古艇を持ちましたがお預けです。社会を豊かにするNPOに、お金が入ってほしいです。

●藤原　航(フジワラワタル)

勤務地:仙台市市民活動サポートセンター

東北出身、北陸育ち、主に関西のNPOで働いていた藤原と申します。ちょっとした気の迷いから、NPO、特に中間支援団体の世界に入ってしまい、早10年。抜けない関西弁と計算ミスの克服がこの一年の目標です。最近気がつきましたが、趣味はNPOのようです。

サポート・ご協力　ありがとうございます

■平成23年度会員(敬称略・順不同、2011年10月1日～12月1日)

(正会員)池田一義、八木充幸、渡邊兼光、(特)ハーモニーハウス、AKK仙台、(特)ほっとあい、(特)まちづくり政策フォーラム、(特)Switch、(特)せんだい杜の子ども劇場

(準会員)岡田真秀、遊佐さゆり、食育NPO「おむすび」

■企業・団体協力(50音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

ご寄附ありがとうございます

■東日本大震災救済・復興支援活動のためのご寄付(2011年11月末)

プロベラ募金への寄付(当センターが行う復興支援活動を応援する寄付)……186件　21,875,303円

■はばたけファンドへの寄付(宮城県内NPOが行う救援・復興支援活動を応援する寄付)……29件　9,915,630円

せんだい・みやぎNPOセンター新年会

仮装か正装で皆さまをおもてなし!当センター恒例の新年会です。

日時:2012年1月12日(木)19時～21時
会場:仙台市市民活動サポートセンター 地階市民活動シアター
対象:NPO、行政、企業各セクター、学生、一般の方、どなたでも大歓迎

※事前にお申し込みが必要です。
たくさんの方々と楽しく交流して頂けるよう、スタッフ総出の新年会です。皆さまのご来場をこころよりお待ちしております!
詳細は当センターホームページやブログをご覧いただくか、スタッフまでお声掛けください。

「フラスコおおまち」からのご案内

※いずれも事前に申し込みが必要です。
※お申し込み・ご質問はフラスコおおまち(電話:022-399-6091)まで。

◆カリスマ経営コンサルタント
小出宗昭さんによる「フラスコ起業支援相談会」(無料)

静岡県を拠点に約2000の企業や団体の経営建て直しや起業を成功に導き、東日本大震災後はいち早く来仙して罹災した企業などの経営相談に応じてくれた小出宗昭さん。今回は起業した人、したい人、事業系NPOなどを対象に無料で相談を受け付けます。

日時:1月7日(土)10:00～17:00
場所:フラスコおおまち(仙台市青葉区大町)

◆風見正三先生の連続セミナー
「地域力を高め、雇用創出につなげるコミュニティ・ビジネス」

宮城大学事業構想学部教授・風見正三先生による、ワークショップ形式の連続セミナー(第1回目は12月17日(土)実施)。今回、第2回目(2/18)のみの参加も歓迎します。対象は、地域をよりよくするための起業やプロジェクトを真剣に考えている方、"もっと事業性を高めたい"と真剣に考えているNPOなど。

日時:2月18日(土)13:00～16:00　参加費:1500円
場所:仙台市市民活動サポートセンター(仙台市青葉区一番町)

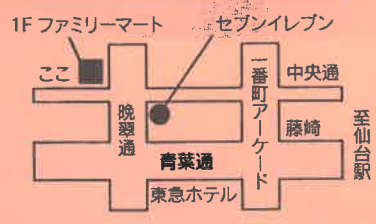
※詳細はフラスコおおまちブログでもご覧いただけます。http://blog.canpan.info/flasco/

連絡先

特定非営利活動法人　せんだい・みやぎ NPO センター
〒980－0804　仙台市青葉区大町 2－6－27　岡元ビル 4F
TEL：022－264－1281　FAX：022－264－1209
E-mail：minmin@minmin.org　HP：http://www.minmin.org/

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事　大滝精一
紅邑晶子
編集部：小川真美
発行日：2012 年 1 月 1 日
デザイン：氏家朗



岡元ビル 4F　仙台駅から徒歩 20～25 分

編集後記

昨年は、あっという間に終わってしまった感じがします。たくさんの大きな出来事がいろんな形でわたしたちの前に訪れました。なぜ、いまこのときに!?と思うことが何度あったでしょうか。それでも、より良い未来を創造するチカラ、想像するチカラがわたしたちにはあるのだと、被災地の様子を見たり、聞いたりするたび、実感したのも事実です。ことしは、加藤さんという巨人を欠いた組織というイメージを乗り越えて、被災地にある市民活動を支援する組織であることに関わっていることを誇りに思い、これまで培ってきたわたしたちの実力とネットワークを被災地のために存分に生かしていく。それが、今年の私たちの決意です。歴史に残るより良い社会環境を皆さまと一緒に共創していきたいと思います。
(代表理事　紅邑晶子)

これまでの人生、その年ごとにいろいろな経験を積み重ねてきたが、こんなに「身体が もう一つあったら」「もっと知識豊富で頭脳明晰だったら」と願っても叶わない想いをした1年は無かった。生まれて初めての感情も味わわされた。3.11に起きたことにどんな意味をみいだすべきか。おばあちゃんでも子どもでもなく、心身ともに動ける年齢で2011年を過ごしたことは、確かに私の人生に強く刻まれた。どうか2012年は世界中の人がこころ穏やかに過ごせますようにと、切に願ってやまない。(Ogawa M)

NPO法人認証団体数｜宮城県587団体 11年11月22日現在 ｜全国43,829団体 11年10月30日現在(内閣府)｜認定NPO法人数全国240団体 11年12月1日現在